



第47回 名古屋国際音楽祭

プラシド・ドミンゴ プレミアム・リサイタル

オペラ界のレジェンドは
80歳を超えた今も現役
“三大テノール”
ドミンゴによる
最高峰の至芸を!



Program

- ジョルダノー: 歌劇《アンドレア・シェニエ》より
第3幕「祖国の敵」
- ヴェルディ: 歌劇《マクベス》より
第4幕「裏切り者め! 憐み、誉れ、愛」
- ヴェルディ: 歌劇《椿姫》より 二重唱
- 「サルスエラ」の名曲 etc...

ムーティ、ドミンゴ、カレラスが
激賞する新時代のスター!



ソプラノ / モニカ・コネサ

※アデーラ・ザハリアから変更になりました。

指揮 / マルコ・ボエーミ 管弦楽 / セントラル愛知交響楽団

©Fiorenzo Niccoli

5/15 水 18:45開演 (18:00開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール

S席 30,000円	A席 24,000円	B席 19,000円
C席 14,000円	D席 9,000円	U25席 5,000円

※U25はアイチケット(電話)のみの取扱いです。25歳以下で来場時に年齢確認いたします。(おひとり様1公演につき1枚限り)
 ※車椅子のお客様はご購入前にアイチケットまで必ずお問合わせください。
 ※入場料金には消費税が含まれます。
 ※やむを得ない事情でプログラム内容、出演者が変更になる場合がございますのでご了承ください。
 ※未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

お問合せ

CBCテレビ 事業部

TEL (052) 241-8118 10:00~18:00(土・日・祝日休み)

主催 / CBCテレビ 後援 / 愛知県・中日新聞社・CBCラジオ

チケットのお求めは 一般発売 11月22日(水)

- アイチケット 0570-00-5310
<https://clanago.com/i-ticket>
- チケットぴあ <https://t.pia.jp> + Pコード 252-956
- ローソンチケット <https://l-tike.com> + Lコード 40136
- e+(イープラス) <https://eplus.jp>
- 芸文プレイガイド 052-972-0430
- 名鉄ホールチケットセンター 052-561-7755
- 栄プレチケ92 052-953-0777
- CBCチケットセンター <https://www.funity.jp/cbc-ticket/>

最新情報は、CBCテレビのホームページで

ご確認ください。 CBC 名古屋国際音楽祭



CBCテレビ



プラシド・ドミンゴ プレミアム・リサイタル

レジェンドの魂の歌声にひたる奇跡のひとつ

井内美香(オペラ・キュレーター)

83歳という年齢にも関わらず、今でも世界で引っ張りだこのスター歌手ドミンゴは声種をテノールからバリトンに変え、オペラで言う父親、戦いに敗れた男、恋敵などの役柄を中心に歌っている。バリトンの素晴らしい役を数多く書いたヴェルディが得意で、今回も演奏が予定されている《マクベス》からは、全てを失ったマクベスが、自ら招いた運命を嘆く「裏切り者め憐れみ、誉れ、愛」が歌われる。また《椿姫》第2幕で歌われるヴィオレッタとジェルモン二重唱は、このオペラの白眉と言える場面だ。もしくはフランス革命の時代を描いたジョルダノの《アンドレア・シェニエ》におけるジェラル。良心の呵責に悩む心を歌うアリア「祖国の敵」は感動的である。

スペインの音楽劇サルスエラも哀感のある美しい旋律の宝庫だが、両親がサルスエラ歌手だったというドミンゴのルーツでもあるこのレパートリーは熱い血潮が感じられる曲が多く、耳にすれば「ああ、知っている」と思う曲も多いだろう。

ドミンゴを昔から聴いている筆者が一番驚くのは、容姿は確かに年齢を重ねて変化を遂げているのに、あの声は往年の輝きを保っていることだ。イタリア人歌手に多い明るい音色と比べると少しメランコリックな響きと潤いのある美声は、変わらない特徴を持ち続けており、鍛えている声は歳を取らないなあという感嘆の気持ちで聴き入ってしまう。

今回はベテランのマルコ・ボエーミが来日に同行し、セントラル愛知交響楽団を指揮する。ソプラノ歌手は、ムーティ、カレーラスが激賞する新時代のスター、モニカ・コネサ。ドミンゴと共演信頼も厚い彼女がアリアやドミンゴとの二重唱で花を添えることになる。ドミンゴの声に長年親しんできたファンも、まだこのレジェンドに巡り会ったことがない人も、「その奇跡的な力に身をまかせる最後のチャンス」を逃さないようにしてほしい。

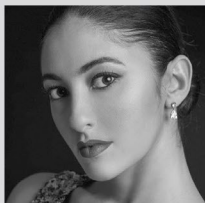
©Fiorenzo Niccoli



プラシド・ドミンゴ(テノール、バリトン)

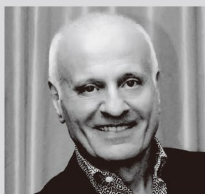
1941年にスペインのマドリードで生まれる。スペインの歌劇「サルスエラ」の劇団を主宰する両親とメキシコに移住し、メキシコシティ国立音楽院を修了。59年にメキシコ国立歌劇場にデビューした。それから65年近く経ちながら、いまでもオペラの舞台に立ち続けている。70年代にはすでに世界の著名劇場や音楽祭を席巻し、公演のために熱狂を巻き起こすトップ・スターだった。パヴァロッティ、カレーラスとともに世界中を沸かせた「三大テノール」の最初のコンサートからも、30年以上が経過している。400年を超えるオペラの歴史で、これほど長く舞台で歌い続けた例はほかにない。しかも、艶がある魅惑的な声もノーブルな表現力も衰えは最小限で、いまなお若い歌手を寄せつけず、公演のために熱狂を巻き起こしている。オペラのレパートリーは150前後といわれ、その数も過去に例がない。あらゆる常識を覆しつつ、いまでも快進撃を続ける、正真正銘の「不世出の歌手」である。

©Kaori Suzuki



モニカ・コネサ(ソプラノ) ムーティ、ドミンゴ、カレーラスが激賞する新時代のスター!

現在、わずか27歳にして、すでにヴェローナ野外劇場で《アイダ》の表題役、ラヴェンナではムーティの指揮で《ノルマ》の表題役を歌うなど、世界の檜舞台で急速に認知されているコネサ。キューバ系アメリカ人で、滅多に現れないドラマチック・ソプラノの大家である。少し陰がある劇的な声を力強く響かせるが、弱音まで徹底的に制御する技術もあり、その声と歌唱はマリア・カラスを彷彿とさせる。彼女を聴くだけでも価値がある。



マルコ・ボエーミ(指揮)

ローマ出身で、サンタ・チェチーリア音楽院でピアノと指揮を学んだが、ラ・サピエンツァ大学の法学部も卒業している。ロンドンで研鑽を積んだ後、数々のコンクールに入賞し、世界有数の歌劇場や音楽祭で演奏を重ねてきた。オペラの指揮で名高いが、モーツァルト、ベートーヴェン、マーラーなどオーケストラ曲のレパートリーも広い。ドミンゴのほかパヴァロッティ、ブルゾン、ネトレブコら大歌手との共演も多く、厚く信頼されている。

キャスト紹介 / 香原斗志(オペラ評論家)

第47回 名古屋国際音楽祭 2024年4月6日(土)~7月14日(日)

会場:愛知県芸術劇場コンサートホール

4/6(土)

(15:00 開演)

名古屋国際音楽祭
オープニング・ガラ・コンサート

6/8(土)

(15:00 開演)

チョ・ソンジン
ピアノ・リサイタル

5/15(水)

(18:45 開演)

プラシド・ドミンゴ
プレミアム・リサイタル

7/5(金)

(18:45 開演)

小林研一郎 指揮 (ピアノ:亀井聖矢)
ハンガリー・ブダペスト交響楽団

5/30(木)

(18:45 開演)

山田和樹 指揮 (ピアノ:藤田 真央)
モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団

7/14(日)

(15:00 開演)

ペトル・ポペルカ 指揮
プラハ放送交響楽団 (チェロ:佐藤晴真)

※やむを得ない事情により、出演者、曲目等が変更になる場合がございます。公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットの、キャンセル・変更等はできません。

※いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。※開演後の入場については、入場制限をさせていただきます。